



人間中心な人と人工物との関係をめぐって

唐沢かおり  
東京大学人文社会系研究科

# 次世代ものづくり

- 「もの中心」「人・機械分離型」から、「もの・サービス融合」「人・機械協調型」へ大きく変容しつつある
- 人・もの・社会が共存するための、ものやサービスの創造（ものづくり）の在り方について議論したい
- もの中心の視座から、人間（またその集合としての社会）中心の視座への転換

# 「人と人工物の協調的關係」の背景

- 人工物（モノ、サービス、人工環境...）の存在、その利用・・・
  - 人の振る舞い（認知・感情・行動）・社会のあり方に影響
- プラスの価値を生むからこそ・・・
  - 個人の欲求や必要が充足され、満足観、幸福度が高まる
  - 人の行動が社会全体の福利に資する方向に変わる
    - e.g., 協力行動の促進、エネルギー問題などの社会的ジレンマの解決...
- →全体としての幸福度の増加、社会課題が解決
- →「人と人工物との協調的關係」によりこれが成り立つへ

# 問題を考える観点

- 心の特性という観点から
  - 主観的満足感・幸福の達成に関わる諸バイアス
  - 「望ましい行動」へと制御する仕組みが内包する落とし穴
- 人・社会・人工物の関係がどうあるべきかという観点から
  - 社会の中で起こりえる問題についてどう考える「べきか」という規範的議論が避けられない

# 心の特性に関わること：主観的評価について

- 対象物の属性を評価する際のバイアス
  - E.g., 自己中心性によるバイアス（自己評価維持バイアス、内集団バイアス、授かり効果、フォールス・コンセンサス...）、リスク認知（確率的に記述可能な合理的世界 vs. 非合理性なヒューリスティック的判断）、ステレオタイプの判断、擬人化による道徳的立場の付与...
- 他者・過去・他の選択肢との比較に由来するバイアス
  - 絶対値ではなく「差」に反応する→他者、過去との比較で現状を評価するため、「比べてさらに良い」ことを過剰に求める、現状のサービス・ものが当たり前・陳腐に思える（慣れ、要求水準の上昇）、他の選択肢に関するメンタル・シミュレーション→後悔
- 「個人のニーズをよりいっそう緻密に満たす人工物・サービス」志向の問題

# 心の特性に関わること：行動制御について

- 行動制御の仕組み・・・外発的動機 vs. 内発的動機
- 人工物やサービス＝外発的動機による制御
  - 明示的な報酬・罰、「誰それが言うから・・・権威主体・モデル・人気のある存在」
  - 罰と報酬は効果が強い
  - 一方で、自分の行動原因が外発的な要因にあると認識すると、内発的動機（興味関心、態度）が低下する可能性
    - 望ましい態度形成の阻害要因
- さりげない誘導ならいいのか？
  - ナッジ？
  - どこまでなら？→倫理的課題

## 人・社会・人工物（技術）の関係がどうある「べき」か

- この問題を考える前提として…
- 技術は常に一定の価値を組み込んでいる
  - 社会にとって価値あるものを生み出すことが、技術・工学の使命
- 価値は中立かつ透明であり得るのか→その保証は難しい
  - 誰にとっても同等に評価されうる、また同等に享受できる価値や、それが何であるのか、誰にとっても明示的に示されている（理解できる）状態が常に保証されているわけではない
  - 組み込まれる「価値」の性質や根拠自体が、あいまいであったり多様であったりする

# 人工物倫理（価値問題）を考える視座

- 技術の価値中立性・透明性の「神話」から脱却する
- その上で問うべきこと
  - 誰がよしとする価値なのか、恩恵を被るのは誰か？
  - ある層にとって価値あることが別の層に対してはOffensiveである可能性は？
- 人間中心、人工物との協調的關係という言葉のなかで、ターゲットとなっている対象って誰？どのような存在？
  - 人工物・サービスを享受する対象は？ そこでのフェアネスは？
  - → 「人間中心」というときの人間が誰であるかが問われている



# 人間中心の「人間」とは誰か

- 「人工物を享受する対象を問う」だけではなく、より根源的な「人間観」に関する問いにもつながる
- 人工物により自分のニーズを埋めていくことで望む自分を獲得
  - 人工物依存の人間観？→人間中心という際の「人間」にふさわしいか？
- 身体拡張技術→身体性レベルから「人間」の概念が問われる
- 個人の意志決定を左右する人工物（サービス）：人間の主体性が問われる
- 私たちは「人工物」により「ナニモノ」になりたいのか？なっていくのか？
- 簡単な答えはない、面倒な問い・・・**Big Question**→目の前のNeedsに答える志向性を優先するということでも、やっていける（かもしれない）

# 「人間中心」、「人と人工物の協調」再考

- 人と人工物との関係、双方の働きかけのあり方を整理する必要がある
  - 人の心と行動を統制する人工物（ニーズを満たすにしろ、制約をかけるにしろ）と、人間の心の仕組みとの整合性
  - 人工物が実現する状態に組み込まれる規範、価値がもたらす倫理的な議論
- その上で・・・「人間」ってなに？人間を中心とするって何？
  - 人間観、社会観に関すること→答えはない
- 問いを放棄しないことに意味がある
  - 主体として問い続ける努力をステークホルダーが行うことが必要なのでは？